

教科書にみられる「家庭像」

— 戦後, 小学校国語科教科書の場合 —

久 武 綾 子

Ayako HISATAKE

(家政学教室)

はじめに

近年, 家庭内や校内で暴力をふるう児童・生徒や離婚に伴う親子関係, 女性のライフサイクルの変化等, いわば, 揺れ動く家族についての著書, 論文は枚挙にいとまがない。

このように家庭, 家族の機能が問われている今日, とくに家庭内暴力児は, その要因の1つに両親の養育態度があげられ, また少年非行は, 家庭が原因ともいわれる。

さて, 親の養育態度や家庭内の仕事に対する役割分担等, そのような習慣は, 子どもの成長に伴い早くから形成される。したがって文部省は, どのような「家庭像」を画き各教科で教育するため学習指導要領で指導してきたのか。その指導要領を基に教科書は作られる。教科書を教える古い教育から教科書で教える今の教育になったとはいえ教科書が児童・生徒に与える影響は大きい。そこで筆者は, 家庭・家族について関係が深い家庭科¹⁾について小学校家庭科教科書を通して「家庭像」をみ, その結果を分析・考察し報告した。

本稿では家庭科と比較するため義務教育の各教科の中で最も授業時間数が多く*, 日常生活に必須であり, 国民の基礎教育である国語科教育に着目し, 家庭, 家族がその教科書でどのように扱われてきたか, その軌跡をみてみよう。これまで国語科教科書を扱った著書, で「家庭像」を扱った箇所は少ないようである²⁾。戦後40年, 目まぐるしく変化する社会情勢を教科書がいかにとらえているか。いま, それを探ることは有意義であると思う。

I 研究方法

教科書における「家庭像」をみるため, まず戦後から現在までの文部省学習指導要領国語科編³⁾と指導書国語科編⁴⁾によって国語科教育の指導方法のあり方の変遷を要約する。

次に, 戦後から現在までの小学校国語科教科書のうち愛知県内でよく使われ, 本校図書館に比較的良好に保存されている東京書籍, 学校図書, 光村図書の3社を選び1年から6年まで286冊を読んで, そのうち家庭, 家族の様子が表されている箇所を複写し資料(以下「家庭像」資料と称す)とした。その資料を基にして, 教科書にみられる家族とその属性, 役割分担, 手伝い, 性差, 国語科入門前期教科書にみられる家族関係, 言葉遣い等の項目について会社別, 検定年別に調査しその推移や社会的背景を分析し考察する。

* 昭和52年学習指導要領によると小学校国語科の授業時間数は1年~6年, 1週6~8時間で平均すると総時間数の26.5%, 最多の3年は32.5%。

1. 小学校学習指導要領国語科編の変遷

小学校国語科は、学校教育法18条4項による小学校教育の目的の1つを達成のためにある。

1) 昭和22年の学習指導要領国語科編³⁾ (試案)

学習指導要領国語科編(試案)は、国語科の領域を、(一)話すこと(聞くことをふくむ)、(二)つづること(作文)、(三)読むこと(文学をふくむ)、(四)書くこと(習字をふくむ)、(五)文法の5つとした。そして実際の指導は、(一)全教科、ことに社会科課程の諸単元、(二)学校生活の諸経験、(三)家庭その他、一般社会生活の諸経験などとの相互の連関がはかられることが期待され、これまでの狭い範囲での形式的な学習指導から、広く日常生活に即した題材を基にした学習指導への転換がみられ、「家庭」については重要な題材であった。

2) 昭和26年の改訂³⁾ (試案)

昭和26年12月、学習指導要領国語科編(試案)の改訂が刊行され、国語科の領域は、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4領域となり、広く日常生活、社会生活に目を向けた学習指導の展開が望まれ、「家庭」については4領域とも題材として取扱われた。

3) 昭和33年の改訂³⁾

従来の「試案」が取り除かれ、各教科とも戦後の新教育による経験主義や単元学習が見直され、国語科の領域は、A①聞くこと、話すこと、②読むこと、③書くこと(書写をふくむ)B、ことばに関する指導として示された。さらに昭和35年には国語科指導書が文部省から刊行され、これまでの言語生活経験重視の国語科の方針を修正し、基礎学力としての国語の系統的な指導をめざすようになり、児童の日常生活と深いつながりのあるものとして取り上げられていた「家庭」に関する記述が、読む、書くの2領域だけに減った。

4) 昭和43年の改訂³⁾

国語の領域は、A、聞くこと、話すこと、B、読むこと、C、書くことの4つに分けられ44年の指導書によると「家庭」に関する記述は、読む、書くの2領域になった。

5) 昭和52年の改訂³⁾

昭和43年版に比べ全教科6年間の時間数が71時間減少され国語科は①言語事項、②表現、③理解、という1事項2領域に単純化された。そして「学校生活全体における言語環境を整え、児童の言語生活⁴⁾が適正に行われるように努めること」という項目が加えられた。53年の指導書によると、1学年の言語事項の中で「学校や家庭など身の回りの目上の人、さらに「児童の生活の場に応じた指導」という記述がみられる。

2. 小学校国語科教科書について

本稿では、上述の指導要領に基づき教科書を調査するが、まず、教科書について概説す。

小学校国語科教科書は、国定制が廃止され検定制に移行した昭和24年には22種もあったが昭和38年には10種と半減し、昭和44年には7種、昭和49年以降は、光村図書、教育出版、東京書籍、学校図書、日本書籍の5社となり、昭和55年版の採択結果をみると、光村図書の市場占有率は60.8%で2位の教育出版の15.7%と合わせると実に76.5%を占⁵⁾有しそれは教科書無償法体制のもとでの寡占化傾向と、広域採択の制度化を示唆している。

本稿では昭和22年の学習指導要領の試案から昭和52年の指導要領の改訂まで、指導要領の改訂と検定年によって前述の3社^{*}の教科書を調査した。次頁表-1にその一覧表を掲ぐ。

(以下本稿では3社を東書、学図、光村と略す。表-1で学図の26、27年検定本は、別内容のための2種選定)

教科書にみられる「家庭像」

表1 調査教科書一覧表

検定番号は省略

会社名	東京書籍			学校図書			光村図書											
	検定年	発行年	教科書名	学冊年数	著者	検定年	発行年	教科書名	学冊年数	著者	検定年	発行年	教科書名	学冊年数	著者			
22年 (試案)	22	22	こくご	1 } 4	文部省	24	24	こくご	1 } 3	学校図書研究会	24	24	かざぐるま	1 } 6	垣内松三			
	24	24	新しい国語	3 } 11 6 } 11		25	25	新しい国語	2 } 4 3 } 4 6 } 6		24	24	24	24		はらっぱ 日あたり 子うま むむまり 友だち たんぼぼ 新国語 まきば みどりの手旗 そよ風 なぎさ 足あと 緑の国 地球 日本の朝 わか草 新生 希望	2 } 6 3 } 3 4 } 4 5 } 5 6 } 6	八木橋 雄次郎
26年 改訂	26	29	改訂 あたらしいこくご	1 } 5	柳田国男 監修 岩瀬悦太郎 ほか編	26	26	こくご	1 } 4	学校図書研究会	25	27	27	27	27	27	27	
	27	30	改訂 新しい国語	3 } 8 6 } 8		27	30	新しい国語	3 } 8 6 } 6		25	27	27	27	27	27	27	27
	28	29	新編 あたらしいこくご	1 } 7 3 } 7	柳田国男 監修 岩瀬悦太郎 ほか編	26	26	一ねんせい	1 } 3	学校図書研究会 監修 奇藤清衛 岡本 明	29	29	29	29	29	29	29	
	30	32	新編 新しい国語	4 } 6 6 } 6		27	27	二年生のこくご	2 } 2		29	29	29	29	29	29	29	29
33年 改訂	35	36	あたらしいこくご	1 } 7 3 } 7 4 } 6 6 } 6	柳田国男 監修 岩瀬悦太郎 ほか編	42	44	しょうがっこう	1 } 2 2 } 2 3 } 8 6 } 6	志賀直哉 久松潜一 吉田精一 望月久貴 他25名	35	36	36	36	36	36	36	36
43年 改訂	45	48	あたらしいこくご	1 } 4 2 } 4 3 } 8 6 } 6		大石初太郎 飯倉篤義 林 四郎 ほか21名	47	48	しょうがっこう		1 } 2 2 } 2 3 } 3 8 } 8 6 } 6	井上敏夫 野地潤家 望月久貴 他24名	45	47	47	47	47	47
52年 改訂	54	55	あたらしいこくご	1 } 2 2 } 2 3 } 10 6 } 6	林 四郎 大石初太郎 飯倉篤義 ほか23名		54	55	しょうがっこう	1 } 2 2 } 2 3 } 3 8 } 8 6 } 6	野地潤家 他24名		54	55	55	55	55	55
	57	58	改訂 あたらしいこくご	1 } 2 2 } 2 3 } 10 6 } 6		林 四郎 大石初太郎 飯倉篤義 ほか27名	57	58	しょうがっこう	1 } 2 2 } 2 3 } 3 8 } 8 6 } 6		野地潤家 他20名	57	58	58	58	58	58
計				102						94						90		

II 調査内容および分析と考察

1. 教科書にみられる家族とその属性

1) 登場人物と家族構成員

先述「家庭像」資料から登場人物と家族構成員を抽出して表示したのが表-2である。

表2 登場人物および家族構成

〔1年生〕 表2-1

会社名	校定年	作品の種類			家 族 構 成 員												総数
		著者	既成	子ども	父	母	ぼく	わたし	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母			
東 京 商 業 大 学	27	○			△	△	△							△			4
	27	○			△	△	△							△			5
	28	○			○	○	○							○			4
	28	○			○	○	○							○			6
	45	○			○	○	○							○			4
	51	○			○	○	○							○			5
	54	○			○	○	○							○			9*
57	○			○	○	○							○			6	
分 校 大 学	24	○			○	○	○							○			5
	25	○			△	△	△							○			6
	26	○			○	○	○							○			5
	26	○			○	○	○							○			5
	26	○			○	○	○							○			5
	29	○			○	○	○							○			6
	29	○			○	○	○							○			5
光 村 大 学	24	○			○	○	○							○			4
	24	○			○	○	○							○			4
	51	○			○	○	○							○			8
	51	○			○	○	○							○			7*
	54	○			○	○	○							○			5*
	54	○			○	○	○							○			5*
	57	○			○	○	○							○			5

〔2年生〕 表2-2

会社名	校定年	作品の種類			家 族 構 成 員												総数
		著者	既成	子ども	父	母	ぼく	わたし	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母			
東 京 大 学	22	○			○	○	○										7
	27	○			○	○	○										4
	29	○			○	○	○										7
	35	○			○	○	○										5
	45	○			○	○	○										4
	45	○			○	○	○										5
	51	○			○	○	○										5
学 校 大 学	24	○			○	○	○										7
	24	○			○	○	○										6
	26	○			○	○	○										6
	26	○			○	○	○										6
	29	○			○	○	○										4
	29	○			○	○	○										6
	29	○			○	○	○										5
光 村 大 学	29	○			○	○	○										4
	35	○			○	○	○										4
	45	○			○	○	○										5

注) ○印-作品の話の中に登場したもの
△印-作品の話の中に登場しないできし絵に登場したもの
*.....単語やさし絵のみの題材

〔3年生〕 表2-3

会社名	校定年	作品の種類			家 族 構 成 員												総数
		著者	既成	子ども	父	母	ぼく	わたし	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母			
東 京 商 業 大 学	22	○			○	○	○										5
	27	○			○	○	○										4
	27	○			○	○	○										3
	28	○			○	○	○										3
	29	○			○	○	○										3
	45	○			○	○	○										4
	51	○			○	○	○										5
分 校 大 学	24	○			○	○	○										3
	24	○			○	○	○										4
	26	○			○	○	○										4
	26	○			○	○	○										4
	29	○			○	○	○										4
	45	○			○	○	○										4
	54	○			○	○	○										4
光 村 大 学	25	○			○	○	○										8
	29	○			○	○	○										7
	45	○			○	○	○										5
	45	○			○	○	○										9*

〔4年生〕 表2-4

会社名	校定年	作品の種類			家 族 構 成 員												総数
		著者	既成	子ども	父	母	ぼく	わたし	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母			
東 京 大 学	27	○			○	○	○										7
	30	○			○	○	○										4
	27	○			○	○	○										4
	35	○			○	○	○										7
	35	○			○	○	○										4
	51	○			○	○	○										5
	54	○			○	○	○										5
学 校 大 学	26	○			○	○	○										5
	29	○			○	○	○										4
	29	○			○	○	○										4
	42	○			○	○	○										4
	45	○			○	○	○										4
	54	○			○	○	○										4
	57	○			○	○	○										5
光 村 大 学	26	○			○	○	○										4
	29	○			○	○	○										6
	35	○			○	○	○										4
	45	○			○	○	○										4
	51	○			○	○	○										3

教科書にみられる「家庭像」

〔5年生〕 表2-5

会社名	検定年	作品の種類 著者 成	家 族 構 成										総数		
			父	母	ぼく	わたし	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母			
東京	22	○	○	○											4
	30	○	○	○											4
	45	○	○	○											4
	51	○	○	○											4
	54	○	○	○											4
東京	26	○	○	○											4
	27	○	○	○											4
	27	○	○	○											4
	27	○	○	○											4
	27	○	○	○											4
東京	29	○	○	○											4
	42	○	○	○											4
	45	○	○	○											4
	54-57	○	○	○											4
	57	○	○	○											4
光村	45	○	○	○											4
	51	○	○	○											4
	51	○	○	○											4
	51	○	○	○											4
	51-54	○	○	○											4

〔6年生〕 表2-6

会社名	検定年	作品の種類 著者 成	家 族 構 成										総数		
			父	母	ぼく	わたし	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母			
東京	27	○	○	○											4
	30	○	○	○											4
	45	○	○	○											4
	51	○	○	○											4
	54	○	○	○											4
東京	26	○	○	○											4
	27	○	○	○											4
	27	○	○	○											4
	27	○	○	○											4
	27	○	○	○											4
光村	25	○	○	○											4
	27	○	○	○											4
	42	○	○	○											4
	45	○	○	○											4
	51	○	○	○											4

(1) 登場人物

表2-1～6によると、全般的にみて父母の登場が、ぼく又はわたしを除く他の家族員

より多いことがわかる。その現象は、検定年、学年による差もほとんどみられない。また父と母とではいくらか母の登場が多いようであるが、欠損家族の事例は極めて少ない。

自分自身の呼称は、1年生では「ぼく」というのが殆んどであるが、中学年、高学年になるにつれ「ぼく」と「わたし」が同じくらいになる。だが6年生のみは、わたしが多い。

兄弟姉妹の登場は、1年～6年の登場人物数207のうち、兄25.1%、姉21.3%、弟21.7%、妹31.9%で、妹の登場が全般的にみると多い。しかし学年による多寡はみられない。

祖父母の登場は、他の家族員と比べ登場回数が少ないが、登場するときは祖父と祖母が揃って登場する傾向がみられ、家庭科の教科書のように祖母だけを登場させていない。

(2) 祖父母の同居、別居

祖父母の居住状態を調べたところ、全体152人中、同居している祖父は58人、祖母は60人で、一方、別居している祖父は15人、祖母は19人であった、なお、別居しているのは、昭和40年以降の作品に多いので、ある程度、現実の家族の実態に即しているといえよう。

(3) 家族構成員の数

表2-1～6によって家族構成員の総数をみると、4～5人というのが全体の3分の2以上を占めている。ところで国語科で「家庭」を取りあげるのは、指導要領の変遷で述べたように児童の日常生活に深いかかわりのある題材だからである。したがって、表-2では、6～7人という家族構成員の事例もみられても、それは作品であるのでしかたない。ちなみに国勢調査によると普通世帯平均人員は昭和40年は4人、55年は3.3人である。

2) 親の呼称

教科書の中に出てきた親の呼称について調べた結果、「おとうさん」「おかあさん」が大多数を占め、「とうさん」「おとうちゃん」や「かあさん」「おかあちゃん」がいくらかみられる。パパは東書の3学年昭和54年検定本に1件みられる程度である。

3) 両親の職業

さきに挙げた「家庭像」資料で、会社別に両親の職業を調べたのが表一3である。

表一3によると、3社とも最も多い職業が父母ともに農業であり、次に多いのは、勤めである。父と母を比較すると、父は、およそ10種ぐらいの職業に従事している場合を題材として挙げているが、母の方は、5種ぐらいしか挙げておらず、男女差がみられる。このような職業の男女差については、『教科書にみられる男女差別』の教科書調査でも男の職種は23種あるが、女の場合は4種にすぎないと、本稿と同じ傾向が示されている。このことは、『男は仕事、女は家庭』という根強い伝統的な性別役割観が反映されている。

表3 父母の職業
(22年～57年検定)
実数

会社 父母 職業	東 書		学 図		光 村	
	父	母	父	母	父	母
農業	18	20	12	13	8	11
勤め	10	4	12	2	6	1
お店	7	1	3	4	1	
漁師	5		8		3	
大工	2				2	
こり	2		3		1	
医師	1					
産婆		1				
先生		1				
技師	1				1	
記者		1				
出稼			1	1		
内職				2		1
行商						3
その他	3		3		4	

2. 家族員の役割分担

国語科の教科書は、家庭科や社会科と違い、家庭そのものを題材とするのではなく、副次的に家庭・家族が画かれているにすぎない。しかしながら、さきの「家庭像」資料を用いて家族員の家庭内での仕事の分担状況を調査するのは、家庭科と国語科におけるそれを比較するためである。以下、父母、子ども、祖父母の役割分担についてみてみよう。

1) 父母の役割分担

さて、父母が家庭内の仕事をどのように分担しているかを比較してみたのが、次頁に示す表4-1である。表の右端の`計、をみると、東書、学図、光村ともに、父の仕事の合計は母の仕事の半分ぐらいしかない。近年、伝統的な『男は仕事、女は家庭』という役割分担に対する考え方について、云々されているが、表4-1によると、昭和50年以降でも、家事は殆んど母が分担し、父がするのは動植物や子どもの世話であって役割分担における性差がみられる。(特例として表4-1の光村の昭和51年の事例は、母が長期、家にいない場合であり、54、57年のは同一題材でそれは父子家庭の例。学図の57年の事例は、非常に器用でこまめな父親で父子家庭ではない。→次頁、表4-1中の○印)

2) 子どもの役割分担

子どもの家庭内の役割分担については、「家庭像」資料の中から兄弟姉妹、ぼく、わたしを一括して、子どもとし、その性差をみたのが66頁の表4-2である。

表によると、男の子より女の子の方が多く家庭内の仕事を分担していることがわかる。男の子が分担しているのは動物の世話である。また、時代の推移とともに子どもの家庭内仕事の分担は少なくなる。これは後述の手伝い(表5-1)にみられるのと同じ傾向で、近年の家庭生活の変化や学歴社会に伴う親の養育態度のあり方が反映されている。

3) 祖父母の役割分担

祖父母については、登場回数が少ないため、その事例も少ないが、比較的多いのが祖父の動物の世話と、祖母の子どもの世話や食事の領域での役割分担である。

教科書にみられる「家庭像」

表 4-1 父母の役割分担 検定年別、会社別、性別 件数

指導要領改訂年	領域 仕事内容 検定年	食		事		掃		除		衣類整理		世 話		買物		寝具・ふろ		交 際 等		修理		計
		食 事 作 り	後 片 付 け 等	部 屋 の 掃 除	外 ・ 庭 の 掃 除	せ ん た く	ア 整 イ ロ ン 等	子 し っ け の 世 話 等	病 人 の 世 話	動 植 物 の 世 話	買 物	戸 ・ 寝 具 等	ふ ろ の 準 備 等	客 の 接 待	P T A ・ 地 域	留 守 番	日 そ 曜 大 工 他					

東 京 書 籍

検定年	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母				
22 22・24	2	1					2		3	1	2	1	1	1		1	1		1			4	13			
26 27	3	1	2		1	1	2		3	4	4		3		1	1	1	1	2	3		1	13	22		
26 28・29・30	3	1	1	3			1		2	5	2						1	1			1		7	14		
33 35							1		1	4		1			1			1	1	2			5	7		
43 45	4	2					1		1	2	1		1	1		1	1	1	1		1		7	13		
43 51	2	3								2					1				1				0	9		
52 54	1						1		1		2	1		2					1				1	7		
52 57	1	1					2		1		2	1											1	7		
計	16	1	10	1	4	1	10		7	18	12	7	7	2	6	1	2	3	2	4	4	8	1	3	38	92

学 校 図 書

検定年	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母		
22 24・25	2								4	2					1								4	5
26 26・27	4	1	2				1		1	5	3	2	1	1	1			1	4				8	20
26 26・27					1		2		4			1			1			2	4				8	7
26 29	2				1		4		2			1	2				1	2			2		4	14
33 42	1	1					1		1	1		1					1			1			4	4
43 51	2	1							1			1					1						2	4
52 54	3	1					1		1			1	1								1		2	7
52 57	①	3	3		①		1	①		1		1		1	1						②		6	10
計	2	17	2	6	2	1	10	2	5	15	6	2	6	4	3	1	4		4	12		6	38	71

○印については前頁の特例としてあげた

* のうち 4 は同一題材内

光 村 図 書

検定年	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母				
22 24・25	2				1	2	1		4	4	4	1	1		1			1	1		1		7	18		
26 29	2	2			1	2	1		5	4	2		1				1	1			2		8	16		
33 35			1				1		2	5	3	1	1		2						1		7	11		
43 45	1											1	1								1	1	2	3		
43 51	①	2	②	②	①		①		①		2	2	1										⑥	8		
52 54	①	1		2			1			3		1	1									1	①	10		
52 57	①	1					1			3				1								1	①	7		
計	3	9	1	6	1		3	4	1	5	11	13	17	3	3	3	5			2	2	1	4	4	32	73

○印については前頁の特例としてあげた

* 同一題材内父子家庭

久 武 綾 子

表 4-2 子どもの役割分担 検定年別、会社別、性別 件数

指導要領改訂年	領域 仕事内容 検定年	食 事		掃 除		洗 濯		世 話					お 使		戸・寝具・ふろ		留 守 番	修 理	計
		食 事 作 り	後 片 付 け 等	部 屋 の 掃 除	外 ・ 庭 の 掃 除	せ ん た く 等	弟 妹 の 世 話	病 人 の 世 話	動 物 の 世 話	植 物 の 世 話	お む か え 等	買 物	お つ か い 等	戸 ・ 寝 具	ふ ろ の 準 備				

東 京 書 籍

検定年	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女										
22 22・24			1						2	5	1	2			1					1		6	7								
26 27		1	1			2	2	1	1	1		2	2	1	1	1	2	2	1	1	3	1	1	1	1	1			14	15	
26 28・29・30		4				1	1			1	2		4	4		2	4		3	1	2		1	1	2	1			13	21	
33 35					1	2			3			1			1		1							1	1				4	7	
43 45		2	1			2			1			2		3	1	1	2							1	1				6	11	
43 51			1	3		1	1	1	1	2				1	2	1	1	1	1	1	1								6	13	
52 54						1			1			3	1				3	2	2										6	7	
52 57				1					2			1				1	1												4	2	
計		7	3	5	1	4	3	6	5	8	11	1	15	7	1	3	6	8	8	8	5	4	2	6	1	2	3	6	2	59	83

学 校 図 書

検定年	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女								
22 24・25			2	3			1					1	2			2	2												6	7
26 26・27			1	1	1	4	4	1				1	2	1	1	2	2	1				1							11	8
26 26・27							1		1			1	2	1		1		1				1							5	4
26 29			1			1			1					1		1	1	1	1			1	1	1			2	6	7	
33 42												1	1			1		1			1	1			1			4	3	
43 45				2								1	1		1		2	1			1	1						5	5	
52 54	1	1	1	1	1	2					1	1	1								1	1						3	8	
52 57	1		1	2		2					1	1			1														3	6
計	2	1	5	9	1	6	5	2	2		2	7	8	3	2	3	6	5	5	3		3	4	3	1	1	2	43	48	

光 村 図 書

検定年	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女							
22 24・25					4	1	1	2			1	1		1	1								1	1	1			9	6
26 29					2	1	1				1	1			1	1						1	1					4	6
33 35		1	1		1	1	1	1	1	1	1			1	1	2	3											8	7
43 45	1	1						1	2		1						1									1		4	4
43 51	2	4	1	1	1	1	1	1	1		1		1	1	1		1			1		2					4	13	
52 54	1	1									1				1	2	1		1									3	5
52 57	1		3								1				1	2			1									2	7
計	1	6	9	1	7	4	4	3	4	1	7	2		3	2	3	8	5	1	3		3	2	1	2		34	48	

教科書にみられる「家庭像」

3. 子どもの手伝い

教科書から抽出した「家庭像」資料のうち、子どもが家庭の仕事を手伝っている題材を選び、その手伝いの内容を12項目に分けて集計したのが次に示す表5-1、2である。

1) 性別、検定年度別手伝いの比較

表5-1によると、全体では女兒は、食事の準備・用意や後片付けを男児は、家業の手伝いや動物の世話を手伝っていることがわかる。なお検定年度の古いころの方が、新しい時代より、より手伝っていた傾向がうかがわれる。このことは役割分担でも述べた。

2) 性別、会社別、手伝いの比較

さらに、性別、会社別に集計した結果を%で表示したのが表5-2である。表中、○でかこった数値がとくに目立つ個所である。しかしながら、国語の教科書では先述のように副次的に家庭・家族が題材の中でみられるのであるから、児童の手伝いに関する他の調査と比較して云々する意義はあまりない。

表5-1 子どもの手伝い
性別・検定年度別 件数

手伝いの内容	22・24		26		27		28・29・30		35		42		45		51		54		57		22-57	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
買物	2	1	3		2		2	1					1	1	1	4	2	2			15	7
食事の準備・用意	1				1	3	1				1	4	3	1	4	1	2	4			4	19
食事の後片付け	1											1	4								1	6
掃除	5	1	3	2	2	3	1	1	2			1	3	1	1	1	1	1	1	1	11	13
せんたく					1				1							2						4
弟・妹の世話・子守り	2	5			2		1	1			2	2	1	4	1	1	3	1			11	15
家業の手伝い	6	1	7	2	1	1	6	3	5		5	3	2	2	2	2	1				35	15
ふとんの整理					1	1	1						1	2	1	1					4	3
動物の世話	3	2	2	3	2	2	4	1			1	1	1	1	3	2	2				19	11
植物の世話	1		1				1			1	1										4	1
おつかい			1		2		3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1				13	7
その他*	1	1	2	1	2	1	1	5	2	2	2	1	1	1	1	2	4				10	19
合計	21	12	20	8	14	8	15	19	7	14	5	3	13	12	8	20	13	15	11	10	127	120

(注) *その他には、もちつき、たきぎ焼い、ペンキ塗り、白黒塗り、水くみ、漬物、衣服の手入などがある。

表5-2 子どもの手伝い
性別・会社別 %

手伝いの内容	性別	会社		東 書		学 園		光 村		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
買物		13.2	6.4	12.5	2.7	8.8	8.1	11.9	5.8		
食事の準備・用意		1.9	8.5	5.0	10.9	2.9	28.9	3.1	15.7		
食事の後片付け		0	10.6	2.5	0	2.7	0.8	5.0			
掃除		3.8	10.6	10.0	13.5	14.7	8.1	8.7	10.7		
せんたく		0	4.3	0	0	5.4	0	3.3			
弟・妹の世話・子守り		15.1	19.2	2.5	0	8.8	13.5	9.4	11.6		
家業の手伝い		26.4	10.6	30.9	13.5	23.9	18.9	28.9	14.0		
ふとんの整理		1.9	6.4	0	0	8.8	0	3.1	2.5		
動物の世話		17.0	8.5	7.5	16.2	17.7	0	14.7	8.3		
植物の世話		1.9	2.1	7.5	2.7	2.9	0	3.9	1.6		
おつかい		11.3	6.4	12.5	5.4	5.9	5.4	10.2	5.8		
その他		7.5	6.4	10.0	35.1	5.9	8.1	7.9	15.7		

4. 教科書にみられる性差

「教科書における男女差別」については、すでに『女の子はつくられる⁷⁾』で報告されているが、ここでは、調査対象の国語教科書から抽出した「家庭像」資料の中から性差について調査したものである。だから性差そのものを課題として抽出した題材ではない。教科書にみられる性差については、次の資料①～⑤にあげる。

資 料

資料① 「リヤカーひき」 昭和24年検定 学図2年上

おじさんのうちへ 男の子とそのおかあさんが ふろおけをもらいに行った。行きは、リヤカーの上に乗って引っぱってもらったが、帰りは 男の子がリヤカーを引き、おかあさんは あとおしをした。うちについてから、おかあさんに「よくがんばったね。やっぱり男の子は つよいね」と ほめられた。

資料② 「ろくべえ まってろよ」 昭和54、57年検定 学図2年上

穴の中に落ちてしまった犬のろくべえを助けようとした子どもたちが、おかあさんたちにたのむのだが、「むりよ、男でなくちゃ」と言って おかあさんたちは帰ってしまった。そこで いろいろ考えた結果、ろくべえの恋人のクッキーをかごに入れて穴におろすことにした。そうしたら、2ひきともが、かごにとびのったので、みんなで ロープを引き上げて助けた。

資料③ 「われらの希望」 昭和 25 年検定 光村 6 年下

12才の女の子が、まもなく中学校に進もうとしているとき、12才という年齢が 人の一生からみて、どういう位置にあるのか、と、といかけ「私は女です、男女平等と一口にいうが、何から何まで同じでなければ ならないか、人間としての価値や人格の上においての平等であって、女には女としての道が おのずから あるのではないか」「女は、家をととのえ、小さい人たちを育て、社会を明かるい、健全なものにしていく使命がある。物質的な富よりも精神的な富を築くのに、いっそう重要な役目をもっている」と。

資料④ 「共に働く」 昭和 25 年検定 光村 4 年下

これは、アメリカにおいて女性解放のために努力したエリザベス＝スタントンの幼いころの話である。妹が生まれたとき「女の子ですって、残念でしたね」と祝いに来た人にいわれたり、兄が亡くなって彼女が兄と同様、勉強したが父は「ほんとに、おまえが男の子であったら…」と云われたりした。父が裁判官であったので父のへやに遊びによったとき、書記に「どうして女に生まれたことが残念か」と尋ねたら、法律書の「気がいいと女…」と書いている数箇所をみせた。彼女は「あれは男が決めたに違いない、いつか あそこを破ってやろう」と計画したが父にすぐみつき、父は「この本を破っても、だめだから、おまえが大きくなったら、法律をかえるようにすることだ」と、いわれた。彼女は、後に「気がいや女」という文章の中から「女、という語を除き、女も男と同様に教育を受け、共に社会に立って働けるよう努力した。

資料⑤ 「ローマ字とともに」 昭和 35 年検定 光村 5 年下

明治の終りころからローマ字を勉強し、広めようと努力した北村千代子さんは、あまり熱心すぎて、周囲の人から冷たい目で見られ、気がいあつかいされた。小学校の恩師でさえ「そんなことをしていないで、うちで(女は)さいほうをしたり、飯たきをしたりするがいい」と注意された。しかし、北村さんは、自分の進む道をまげず、ローマ字の普及のために、ただ一すじの道を歩みつけた。

以上①～⑤の資料によると、教科書では様々な形で性差が画かれている。昭和 25 年検定のころは、女性蔑視が顕著に表れている題材が取り入れられていたが、検定の新しい時代になると、そのような題材はなくなり、現実の社会生活や家庭生活の中で無意識的に使われている性差用語が用いられている程度になる。ともあれ、子どもたちに直接、影響を与える教科書では正しい男女観が育成されるような題材を取り入れるべきである。

5. 小学校 1 年国語科入門前期教科書にみられる家族関係

1) 教科書における最初の題材

小学校国語科教育において最初の「聞く」「話す」の学習のためにどのような題材(さし絵)を設定するかは、義務教育の最初の段階として、また親が子の入学時の教科書には関心をもつであろうという家族関係上も重要である。そこで、教科書を調査したところ時代の推移につれ以下に示す、3～4の型があることがわかった。

①入学式に母子で行く、または入学当初の教室風景(東書、学図の昭和 26, 27 年検定等)

②男の子と女の子がなかよしの型(東書、の昭和 28, 29 年、学図の 24 年, 42, 45 年検定等)

③動物または子どもが遊んでいる漫画型(東書、学図の昭和 54 年, 光村 54, 57 年検定)

以上の 3～4 の型の変遷をみると、①の母子で入学式に行く型は、昭和 50 年以降は、共働き夫婦の増大につれ姿を消し③の漫画型に変わる。それは、よく解釈すると編集上の気配りともいえようが、その実は、商業主義に支配された結果であると思われる。

教科書にみられる「家庭像」

2) 初出の言語

小学校国語科教育において、その使用教科書に最初に出てくる言語は、これまで例えばサクラ読本とか、ハナ・ハト教科書とか、いわれ、それによって教育制度の新古や国語科教育のあり方を知る上で重要な役割を果たしてきた。文部省は昭和60年7月24日、「幼稚園教育に関する実態調査」の結果、文字や数を小学校なみに「一斉指導で教える」ところが私立を中心に1割前後あったと報告している。が、しかし義務教育の最初の段階で、「どのような文字をどのように教えるか」は重要である。そこで、国語科教科書で最初に出てくる言葉を調べたのが表6-1である。

表6-1 小学校1年国語科入門前期教科書にみられる初出言語とさし絵

東 京 書 籍

検定年	検定番号	巻 単 元 名	初 出 言 語 と そ の 頁	さ し 絵
21	(文部省)		アカイ、アカイ、アサヒ、アサヒ、(1頁)	な し
22	(文部省)	1 みんないいこ	おはなをかざる、みんな いいこ (4、5頁)	男女児11人
27	109	上 いちにち	はるをさん (18頁) おとうさん、おかあさん (20、21頁)	子どもが ポンプくみ
28	145	1 はるお よしこ	よしこさん おはよう (8頁) はるおさん おはよう (9頁)	男の子と 女の子
36	1018	1 いちねんせい	せんせい。せんせい。(2頁)	女教師 男児14人
45	1031	上 なかよし	みえます。(2頁)かわがみえます。はしがみえます(3頁)	男児児が 街を見下す
51	1131	上 はる	はしれ はしれ(2頁)	子ども5人 ボール遊び
54	103	上 う み	うみ、ひろい うみ(2、3頁) あおいそら(4頁)	動物と海 のマンガ
57	113	上 う み	うみ ひろい うみ(2、3頁) あおいそら しらくも(4頁)	横図は上と 同じ(改訂)

学 校 図 書

検定年	検定番号	巻 単 元 名	初 出 言 語 と そ の 頁	さ し 絵
24	116	上 たのしいあそび	まさおさん(4頁) よしこさん(6頁)	男児、女児 が遊び図
26	160	上 にゅうがく	まことさん、はい(4、5頁) うれしいな(7頁)	先生(男)と 男児11人
26	163	上 がっこう	まさおさん、(16頁) すみこさん(17頁)	男児15人 ずべり台
29	156	上 まことさんの一日	まこと(10頁) としこ(11頁)	両親と 男児
42	1047	上 なかよし	さくら。さくら。 おかの うえ。(2、3頁)	男児2人 と園の桜
45	1071	上 な し	あか。あお。きいろ(2頁) たかい そら(3頁)	風船と 動物マンガ
54	105	上 なかよし	あおい あおい(2頁) うみの うえ(5頁)	空に飛行船 のマンガ
57	115	上 なかよし	あおい うみ(7頁) あおい あおい うみのうえ(8頁)	動物と海 のマンガ

光 村 図 書

検定年	検定番号	巻 単 元 名	初 出 言 語 と そ の 頁	さ し 絵
24	108	上 おはよう	くろ。くろ。わん。わん。(4頁)まさおさん、おはよう、よしこさん、おはよう(5頁)	男児2 女児1 犬
29	175	上 こいのぼり	たかい たかい(16頁)	鯉のぼり
45	1051	上 あ さ	あさ。あさ。あかるい あさ。(2、3頁)	子ども2人 大 ハト
51	1141	上 う み	きこえる。きこえる。なみのおと。	海、砂浜 に亀、かに
54	109	上 なかよしのき	たかい たかい みえる みえる(7頁)あおい そら くものうえ(8頁)	なかよしの き(マンガ)
57	119	上 はしれ はしれ	みえる みえる(5頁) はしれ はしれ(6頁)	遊園地乗物 (マンガ)

表6-1によると、小学校入学当初の国語科教科書に初出の言語に時代の推移がみられる。国語科教育においては、それなりの意図があると思われるが、入学当初の学校教育における「しつけ、の面からみると、「おとうさん」とか、「おはよう」というのが良いのではなかろうか。だが、国語科教育では「とう」とか、「よう」は長音であるので適切でないという⁹⁾。そこで、入学当初において家族に対する言語としてどのような言葉が最初に出てくるかを調べたのが、次の表6-2である。

表 6—2 小学校 1 年国語科入門前期教科書にみられる家族に対する初出言語

東 京 書 籍

検定年	検定番号	巻	単 元 名	初 出 言 語 と そ の 頁
◎(21)	(文部省)	上	ひとつの ことばから	オカアサン、タダイマ 8頁
22	(")	I	ひとつの ことばから	お日さま— おかあさん— かがみ 32頁
27	109	上	いちにち	おとうさん、20頁 おかあさん 21頁 おかあさん、ただいま 28頁
◎	"	"	"	"
28	145	I	おとうさん てがみ 21頁 おかあさん 28頁	
◎	147	II	四、おつかい	おかあさん ただいま 42頁
36	1018	I	いちねんせい	(親子 4 人の絵だけ 5 頁) 家族関係用語なし
45	1031	上	なかよし	ほんをみました、にいさんとよみました 6頁
"	"	"	はなしまししょう	わたしは にわに さんしきすみれを おとうさんと うえました 23頁
51	1131	上		おかあさん ぼくは ふねをつくったよ 12頁
54	103	上	6 しらせたいことを かきまじょう	たかしさんは おかあさんに しらせたいことをかきました 45頁
57	113	上	四 はなしまししょう	おとうとに おはなしのほんを よんであげました 30頁 おかあさんと おさらをあらいました。ぴかぴかになりました 31頁

学 校 図 書

検定年	検定番号	巻	単 元 名	初 出 言 語 と そ の 頁
24	116	上	まさおさんのいちにち 一、おはよう 九、おとうさん	おとうさん おはよう、おかあさん、おはよう 16頁 まさおさん おはよう 16頁 おとうさんが、かえりました。「おとうさん、おかえり」 26頁
◎	26	上	いちにち	おとうさん 10頁 おかあさん ただいま すみこちゃん ただいま 29頁
◎	26	上	いちにち	おかあさん、ただいま まさおさん おかえり 24頁 おとうさん おかえり ただいま 28頁
◎	29	上	まことさんの一日	おかあさん ただいま おかえりなさい 25頁 ただいま、おとうさん おかえりなさい 26頁
42	1047	上	みにきてね	かあさん よぶのも、うたでよぶ 30頁
45	1021	上	一ねんせい	(言葉なし、絵を見て話す) 1頁
54	105	上	どうぶつのおかちゃん	かばのおかちゃんは……おかあさんのうちを のみます 53頁
57	11 5	上	ながいおん	おばさん→おばあさん、 おじさん→おじいさん 40頁

光 村 図 書

検定年	検定番号	巻	単 元 名	初 出 言 語 と そ の 頁
◎	24	上	きょうなら	おかあさん、ただいま、まさおさん、おかえりなさい 31頁
29	176	中	なつがくる	かあさんが ジャのめでおむかえ うれしいな 18頁
◎	45	上	へんじとあいさつ	ただいま (おかあさんの絵あり) 9頁
51	1141	上	こえをだして よみまじょう	おばあさん、おかあさん、おじいさん、おにいさん、おとうさん、いもうと 23頁 えきへ おとうさんを むかえりにきます 43頁
54	109	上	わたしとぼく	おかあさんからみると こどものみちこ 26頁 おかあさん→おばあさん 30頁
57	119	上	わたしとぼく	わたしのおかあさんとおじいさん 24頁 おかあさんからみると こども。おじいさんからみるとまご 25頁 おかあさん→おばあさん 28頁

表 6—2 によると◎印を付した個所は、小学校入学当初の児童は、帰宅すると『おかあさん、ただいま』『○○さん、おかえり』という母親が家にいて、子どもを迎える母子像が画かれている。ところが働く母親が増大する昭和 40 年以降では、このような母子像は皆無となる。そこで◎印以降における母子関係を表わす初出の言語を調べたところ、

東書では昭和 51 年検定の「おかあさん、ぼくはふねをつくったよ」から昭和 57 年検定の「おかあさんと、おさらをあらいました。ぴかぴかになりました」となり、57 年本は、あまりにも「いい子、すぎるように思われる。また光村では、昭和 54 年、57 年検定ともに「おかあさんからみると、こどものみちこ」というように家族関係を表す言葉が初出する。

以上のように、教科書会社の編集の方で社会的背景を考慮して改訂したことがわかった。

6. 言葉遣い

教科書での会話の中の言葉遣いや、文章中敬語をどのように使っているか、を調査することによって、社会の変動に伴う家族の変貌をとらえてみようと思う。

1) 家族員間の呼称方法

家族員間での呼称を会話の中から取出し、年代をおってその違いをみたところ、3社とも昭和27年検定のころは父が子をお呼ぶとき、呼び捨てにしているのに対し、母は〇〇さんと敬称をつけているのが殆んどある。同時代で兄が弟妹をお呼ぶときも父と同様、呼び捨てにすることが多いが姉は母と同様、さん付、または、ちゃん付である。このように古い検定の時代では家族員間の上下、性別によって呼称が違っていた。ところが昭和30年検定以降では、母が子をお呼ぶ捨てにしたり、「ちゃん」をつけたりする。上述の古い時代は呼び捨てにしていた父と兄も「ちゃん」をお呼ぶ例が出てくる。このように親子・兄弟姉妹間の呼称方法に時代の推移による違いがみられる。

2) 敬語の使い方

(1) 文章中

文章の中で祖父母、父母など目上の人のお動作を表すとき、検定年の古いころでは、「……とおっしゃいました」「……していらっしゃいます」というように敬語が使われているが、年代が新しくなってくると「…と言いました」「……しています」となる。この変換の時期を調査したところ下の表7-1に示すように、だいたい昭和30年を境としているようである。

(2) 会話の中

会話の中における言葉遣いの変化をみると、前述の述語における敬語のように極端な変換期はみられないが、少しずつ変わっていくことがわかる。次に、親子の会話中の言葉遣いの変化について3つの事例を表7-2にまとめて表示した。さて、表によると、検定の古い時代は親子の会話にも敬語を使っているが、昭和50年代になると友達間のような言葉遣いへ変わっていく。このことは、親子関係がタテの権威主義からヨコの友愛関係へ変革したのを示唆している。しかし、あまりの行き過ぎには危惧を覚える。ある程度の矜持は保ちたいと思う。子どもの発達段階において、美しい日本語を守り、乱れを防ぐために。

表7-1 述語の使用法の変遷 表7-2 親子の会話中にみられる言葉遣いの変化

会社	学年	おっしゃった	といった
東 書	1	検定年 昭和27年	検定年 昭和28年
	2	27	29
	3	27	29
	4	27	30
学 園	1	26	29
	2	26	29
	3	27	29
	4	26	29
光 村	1	29	35
	2	29	35
	3	29	35
	4	25	29
	5	29	35
	6	27	35

事例1 東書2年			
検定年	検定番号	会話中の言葉遣い(同一題材)	
27	282	おとうさん、おちゃをはこんできましたよ	
29	228	おとうさん、おちゃをもってきたよ	
35	2015	おちゃだよ、さきにかえるよ	
事例2 東書			
検定年	検定番号	学年	会話中の言葉遣い
29	229	2Ⅱ	かたをたたいてあげようか
51	6131	6上	父ちゃん、かたをたたいてやろうか
事例3 学園4年下			
検定年	検定番号	対象	会話中の言葉遣い
54	406	子→父	ちえっ残念、じゃあ、お父さん、やってみてよ
"	"	父→子	オッケー

要 約

- 1) 学習指導要領における小学校国語科は、戦後の生活中心の教育から、系統的知識を重視する知識尊重の教育へ変わった昭和33年の改訂が大きな転期である。また、文部省の指導書で児童の日常生活における身近な隣人としての「家庭」も、33年を境に変化した。
- 2) 国語科教科書に画かれている「家族像」について、まとめると以下のようになる。
 - ①最も登場頻度が高い母親については「おかあさん」と呼ばれていることが多く、家庭内の仕事に忙しい型にあまり変化がないが、近時は外へ働きに出る母も画かれている。
 - ②父親については、「おとうさん」と呼ばれている場合が多く、仕事一筋で、家事は殆んど母親任せにしているが、子どもの世話や教育・しつけでは協力している。
 - ③子どもは、時代の推移とともに家の仕事を手伝わなくなり、内容に男女差がみられる。
 - ④両親や子どもの役割分担や手伝いに変化はみられるものの性別分業観が残っている。
 - ⑤祖父母はその登場回数は少ないが、家庭科の教科書のように祖父が全く登場しないというようなことはなく、同居している場合が多い割には、家事を分担していない。
- 3) 家族間の言葉遣いについてみると、時代の流れとともに次第に家族の中での上下関係が薄れ、敬語が使われなくなってきていることがわかった。
- 4) 国語科入門前期の教科書における最初の題材や言葉は、国語科教育上も家族関係においても重要な機能をもっているが、そこに時代の推移による変化がみられた。

お わ り に

戦後、間もなくの小学校国語科教科書から現在のものまで、とくに小学校国語科入門前期の教科書においては、昭和21年のワラ半紙のパンフレット教科書から現代の大判の上製のものまでを見くらべると、全く隔世の感がある。また、さし絵を見ると、昭和29年検定本までは、父親は和服でくつろぎ、母親は和服で帯付の割ぼう着姿がおきまりの型。その後は、洋服姿の母親に変わり、絵でみる家族像はその時代の推移がそこに見られた。

また、言葉遣い等、総体的には「家庭像」の変化をうかがうことができた。が、しかし家族員数等、実際の家族の現状に合わない面もあった。これは、国語科が教科としての性格上、家庭や家族をその課題としていないからやむをえないかも知れない。しかしながら、教科書においてはできるだけ家庭、家族のあるべき姿に近づけてほしいと思う。

ともあれ教科書が日本人をつくったといわれるように、教科書の影響は大きく、児童の人間形成上、重要な役割がある。したがって「家庭」「家族」の領域は、家庭科ばかりでなく、折にふれ他の教科においても、とりあげ子どもとともに考えてゆきたい。

最後に、国語科教科書の編集委員が各社とも殆んど男性であるというような現状を改め、教科書の中に、もっと女性の意見が反映されるよう、配慮されることを切望する。

稿を終るにのぞみ、本稿の「家庭像」資料の作成や、その調査、分析等に協力していただいた本校家政学教室学生、浅岡美由樹、杉本美香の両氏に深謝の意を表わします。

(昭和60年8月19日受理)

引 用 文 献

- 1) 久武綾子：教科書にみられる「家庭像」愛教大教科教育センタ研究報告，8号243～254頁

教科書にみられる「家庭像」

(1984)

- 2) 唐澤富太郎：教科書の歴史 創文社 662頁 1956
- 3) 文部省：小学校学習指導要領 国語科編 昭和22年～53年（頁数は省略）
- 4) 文部省：小学校指導書，国語編，昭和35～53年（頁数は省略）
- 5) 日本教職員組合：小学校教科書白書 一ツ橋書房 29, 30頁 1982
- 6) 「福岡・女性と職業研究会」：『教科書にみられる男女差別』 研究会報 第2号（1975）
- 7) 佐藤洋子：女の子はつくられる 白石書店（1975）
39～50頁では「婦人問題懇話会」調査の小学校国語教科書の男女比数や日教組婦人部の「女子教育もんだい研究会」による『現行教科書批判』の一部が紹介されている。
- 8) 前掲：教科書の歴史 740頁
- 9) 前掲：小学校教科書白書 44頁